

道ばたに見る春の草たち

市街地の生きもの 広瀬重夫

イヌフグリのなかま



写真4 (上) : オオイヌフグリ
3月, 東灘区.



写真5 (上) : イヌフグリ
3月, 垂水区.

オオイヌフグリ

日当たりのよいところなら, どこでも見られる春の草花の一つです. 明治のはじめころ, ヨーロッパから入ってきて日本になじんだ植物です. こういう植物を帰化植物といいます. ルリ色の花をいっぱい散りばめて咲いたあとは, 中央がへこんで2個に見えるような種子をつけます.

イヌフグリ

郊外でも数が減ってきたので, 兵庫県では, レッドデータブックのCランクに載せられていますが, どっこい, 市街地の石垣の間からも生えてきますので, 早い春の発見にアタックしてみましょう.

ちょっとオオイヌフグリの葉に似ていますが, こちらはもっと小さい花で, ごくうすいピンク色をしていますので, すぐに区別できます. この草は, 日本に古くからある植物で, 帰化種(きかしゅ)に対し在来種(ざいらいしゅ)と呼んで区別しています.



写真6 (上) : フラサバソウ
4月, 中央区.



写真7 (上) : タチイヌフグリ
2月, 垂水区.

フラサバソウ

オオイヌフグリほどには広がっていませんが、やはりヨーロッパ生まれの帰化植物です。花の色はずっと薄い紫色で、目立ちません。

タチイヌフグリ

上の3つと同じなかまですが、ここでは冬の幼植物だけをとりあげました。4月ごろには立ち上がって、4つにさけた小さい青色の花をつけます。ヨーロッパ生まれです。

以上4つの草花は、いずれも花の上の方ではさけていますが、下の方は合わさっている「合弁花」ですから、よく見ておきましょう。ゴマノハグサ科のなかまです。図鑑で調べるときには、まず、花のつくりを目を向けましょう。

イヌフグリのなかまのちがい

イヌフグリ



包葉を4枚つけた
果実のようす

中央がへこんだ
果実



葉はほとんど
無毛



大きなくぼみのある
小さな種

1果に10ヶほどの種子が入って
いる。ほぼ球形。直径 1.2mm ~
1.5mm。淡いかっ色。

オオイヌフグリ



包葉には、やや
荒い毛がある。



葉の上面には
毛がある



種子は茶かっ色、2.2mm で
イヌフグリよりずっと大きい。



<参考>ゴマの種
約 3mm

フラサバソウ



果実の頭はあまり
へこまない



葉に毛がある。互生(たがい
ちがいにつく葉)



種子は淡いかっ色
長さ2mmぐらい。

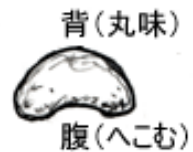
タチイヌフグリ



斜め横からみた果実



ほとんど柄のない葉
対生(向かい合っつく)の葉



種子はイヌフグリよりも
まだ小さい

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)